

2017 年度事業計画書

当、公益社団法人マスコミ世論研究所は、平成 29 年度次のような事業を実施する予定である。

1. 諸分野における時事問題について、マスコミおよび当事者視点による情報の普及、及び世論の健全な形成を促進する事業（草の実アカデミー）

高度情報社会の民主主義は、大衆の日常の声の積み重ねから発せられる、権力と拮抗する厚みを持った世論の存在によって保たれるとの上田哲初代理事長の理念に基づき、本来あるべきアカデミズムとジャーナリズムの視座を引き受け、圧倒的な大衆（＝草の実）の日常の声の結集を図る場として機能することを目指している。

[1] 講演会、セミナー等の開催

① 講演会・セミナーの開催

諸分野における時事問題を、マスコミ情報だけでは分からない実際の現場の視点から理解し、開かれた議論を行うことを目的として、講演会や公開セミナー等を開催する。講師として、主体的立場にある有識者、あるいは深い知見を有する当事者らを招聘する。

原則年 12 回、毎月第 3 土曜の開催とする。テーマおよび講師は、担当理事を中心に企画会議にて決定する。各理事やこれまでの講師陣からもこの企画委員に加わってもらう。

併せて、この講演会・セミナーを、マスコミ、ミニメディアからブログ、ツイッター、フェイスブック、街頭宣伝まで、あらゆる分野と手法において継続的に言論活動を行っている個人・団体の相互の交流を図る場とする。

② 講演会・セミナーのインターネット中継と動画の保存公開

講演会やセミナーはツイートキャスティングで中継し、映像を保存する。その映像は当法人が運営するウェブサイト（草の実アカデミー・ブログ）などからも、一般に公開する。

③ ホームページやメールマガジンの運営

「草の実アカデミー・ブログ」や「草の実アカデミー・メルマガ」（原則月 1 回以上発行）を通じて、講演会やセミナーなどの活動予定、および実施した講演会等の内容についてタイムリーに広く報じる。

④ 講師交流会の開催

講師陣の交流会を開き、情報交換や多方面との連携を図る。

[2] マスコミ情報の収集・分析

① マスコミ情報の収集・分析

諸分野における時事問題の構造や特性、論点を分かりやすく紹介するため、マスコミによって流通する情報と、マスコミが触れない情報も含めて継続的に収集・分析し、一般に公開する。

ある時事問題に関する取材・著作・制作活動において際立った業績を残している方や、中心的立場にある当事者である方へのインタビュー（取材）を主として行う。その他に、新聞、雑誌、テレビ番組、ミニコミ、政府刊行物・官報などからの情報収集を行う。全国紙と地方紙における

情報の違いや、世論調査の差異についても注目する。

② 調査結果の公開

現在上の調査結果は主に講演会・セミナーの企画に反映されている。

また、「草の実アカデミー・ブログ」や「草の実アカデミー・メルマガ」を利用して、議論・研究されたテーマについての有益な情報提供を行う。

③ インターネット「世論力テレビ」局

過去の調査結果の一部についてはインターネット「世論力テレビ」局で、番組アーカイブやデータベースとして提供している。

[3] 今年度の重点テーマ

上記の講演会・セミナーの開催、及びマスコミ情報の収集分析を実施する上で、次の3点のテーマについては昨年度に引き続き強化する。

- ① 2013年12月に成立し、2014年12月に施行された、いわゆる「特定秘密保護法」に関して、秘密指定の実態や影響を調査・把握する。
- ② 上記①に関連して、2016年5月に成立した「刑事訴訟法の一部を改正する法律案」による影響（いわゆる共謀罪などを含む）を調査・把握し、専門家を招いた講演会などで、わかりやすく社会に伝える。
- ③ 公正で民主的な選挙の実現に関して考える。市民選挙制度審議会など具体的に公職選挙法改正試案を作成中の団体などとも交流し、一票の格差にとどまらない現行の不備を明らかにし、具体的な代替案を考察する。

2. 一般市民が語る戦場体験の記録・保存・継承に関する事業（戦場体験放映保存運動）

[1] 世論動向の調査、研究

① 戦場体験のインタビュー記録の収集

“見たまま・聞いたまま”のナマの語りによってあの戦場の実態を語り伝えるため、元兵士世代へのインタビューを映像で記録する。この活動は13年目に入るが、元兵士世代はいよいよ90歳を超え、これまでのアプローチだけでは体験者の掘り起こしが難しくなっている。

個人の体験を集積して歴史を継承しようとするこの試みに、一定規模の体験の蓄積は必須で、最後まで一人でも多くの体験を集めるべく、本年度は特に以下を重点的に取り組む。

(ア) 「戦場体験を放映保存する老若の全国キャラバン隊」の継続

昨年開催した「戦場体験者と出会える茶話会」（詳細後述）は体験者に積極的に参加いただける企画であった。今年度は全国4都市での開催で、新たな体験者の掘り起こしに繋げたい。

(イ) 介護施設との連携

介護施設と連携して体験談の聞き取りを行う方法を模索する。

地域の介護施設への企画書の持ち込み、聞き書きの実績を持つ高知県の「長老大学」の視察、施設関係者への「茶話会」の広報などを行う。

(ウ) 孤児や銃後の体験者への聞き取り

戦争孤児の体験記録はまとまった研究が未だあまり無い分野であるが、元孤児も80

歳前後となり体験を語り始める人たちが出てきている。今年度は、沖縄戦・南洋戦や都市空襲などで孤児となった人たちの聞き取りを予定している。

また戦争を支えた社会を深く理解するためにも、銃後の体験者の聞き取りも行う。特に90歳前後以上の女性の聞き取りは積極的に行う。

② 戦場体験の語り・継承の記録の収集

日本の敗戦後から現在まで、戦場体験がどのように語り継がれ、どのように受け止められてきたかを、マスコミ情報や当事者らの活動履歴から幅広く調査する。

引き続き以下の資料の収集にあたる。

(ア) 当時の日記や書類、写真、物品

(イ) 体験者による記録（手記、著作、絵画など）

(ウ) 体験者個人、および体験者の団体（戦友会など）が発行した書籍や冊子

(エ) 戦場体験の語り・継承にかかわる活動の記録

これまでに収集してきた記録について、展示会での公開方法を工夫することで、より多くの文物の収集に協力して貰う。

③ 戦場体験の継承にかんする研究

戦後70年以降における戦場体験の継承のあり方を考えるための研究活動を行う。

(ア) 関連セミナー

戦場体験の継承に取り組むうえでの考え方や姿勢、知識を身に付けるため、有識者を講師に迎え公開セミナーを開催する。

(イ) 研究成果の報告

過去のシンポジウムの内容を冊子にまとめる。

沖縄戦・南洋戦民間人被害者の体験談について、冊子化にむけた検討・準備を行う。

[2] 戦場体験史料の公開、継承（戦場体験史料館）

① 戦場体験史料館・電子版

戦場体験のインタビュー記録（インタビューを書き起こした文章と映像）は、あの時代を考えるための大切な史料として戦場体験史料館・電子版で公開する。公開にあたって、第三者による編集は極力行わない。

また、当時の日記や写真、物品などの公開も進める。

史料館の拡充については、この数年、計画が達成できておらず、今年度は新たに担当者を選任する。

(ア) 収蔵人数の拡張

2017年度の目標は300名（累計）とする。

(イ) 内容の拡充

当時の日記や写真、物品について、掲載フォームの整備をする。

② 語り継ぐ活動

(ア) 「沖縄戦展 Part2 & 沖縄戦・南洋戦体験者との茶話会」

・6月23日(金)～25日(日) 東京・浅草公会堂 展示ホール

従来の沖縄戦の証言パネルや写真パネルに加え、新たに聞き取りをする「沖縄戦・南洋戦民間被害者の会」の方々の体験談や、診断をした精神科医への聞き取り、民間人戦災被害の戦後補償に関する取り組みについて紹介する。

また沖縄などから体験者を招聘し、茶話会形式で体験を聞く場を設ける。

(イ) 戦場体験者と出会える茶話会 “全国ツアー”

昨年開催した「戦場体験者と出会える茶話会」は、体験者の証言を直接聞き、対話も出来る場として、幅広い世代に大変好評だった。

今年は下記のとおり全国4都市での開催を予定している。

・8月11日(金・祝)～13日(月) エルパーク仙台 ギャラリーホール

・9月9日(土)～10日(日) 福岡市市民福祉プラザ 交流ひろば

・10月上旬 大阪市

・11月下旬 東京都

併せて、これまでに収集してきた証言のパネルや、写真・手記・物品などの展示、全国で行われている戦争を語り継ぐ取り組みの紹介などを、開催地の特徴も活かしながら行う。

茶話会は、開催のためのノウハウをマニュアルとして提供し、様々な場所や団体で開催されるよう後押しをする。

(ウ) 展示パネルなどの貸出

展示イベントをより多くの場所で開催するため、展示パネルや物品の外部貸出と、その広報活動を行う。

(エ) 交歓会の開催

元兵士と戦争を知らない世代のボランティアの交流の場を7月、3月に開催する。

③ 戦場体験放映保存運動に関する広報活動

(ア) 「史料館つうしん」の発行

2017年4月、7～8月、10月の3回発行を計画する。

以上